



経営にビッグデータを。

ビッグデータの活用で経営者は自らの経験を上回る知見が手に入られます。

不確実性の時代では、経営者の経験に加えてデータ分析に基づく判断が、ますます重要になります。カギを握るのは、ビッグデータの中に隠れている統計学的示唆を活用すること。IBMは、最新テクノロジーにより、統計の精度向上のために必要となるサンプリングの規模を圧倒的に拡大。そこから生まれる高精度の予測モデルとシミュレーションにより、経営判断の精度も飛躍的に向上させます。コンピューター処理され蓄積された「構造化データ」に加え、気象や交通、音声や画像、センサー・デバイスから自動生成される膨大なデータ、さらにはソーシャル・メディア上のつぶやきや書き込みなど、コンピューターが認識不可能だった「非構造化データ」を解読可能な情報とすることで、現状分析と未来予測の精度が大幅に向上。経営の大きな力になります。

ビッグデータ活用のカギを握るのは、「統合されたデータ分析基盤」です。

経営者がより多くの知見を得るためにビジネスの予測精度を向上するには、分析対象データの規模の拡大が不可欠です。IBMは、ビッグデータを、構造化データと非構造化データの複雑な組み合わせによって増す「多様性」、次々に投稿されるソーシャル・メディア上の書き込みなどデータ発生「頻度」、そしてそれらが組み合わせることによってさらに膨大に増える「量」という3つの特性として捉え整理し統合。これまでのデータ分析基盤に、ビッグデータの中で大きな割合を占める非構造化データや、リアルタイムに

発生するデータの分析基盤を統合することで、分析対象データの規模を格段に拡大し分析の精度を向上させ、また急激に変化する市場での迅速な意思決定を可能にしました。さらに、このデータ分析基盤に汎用製品を使いクラウドを活用することで、巨額のITコストと多大な時間を要し、国家規模の大プロジェクトでのみ可能であった高精度の現状分析と未来予測を一般企業でも実現。ライバル企業の多くがすでに活用を始め、具体的な成果を得ています。

すでに多くの企業がビッグデータを活用し成果を出しています。

インターネット取引を専門とするカブドットコム証券*は、ソーシャル・メディア上の膨大なビッグデータを株売買の参考となる情報に加工して顧客サービスに活かすため、対象とする銘柄と関連性の高い言葉の抽出、分析をIBMのサポートのもと始めています。46銘柄を対象に、1日あたり約900万行に及ぶソーシャル・メディア上の情報を収集して約43,000のキーワードによって絞り込み、その情報の相関分析を実施。キーワードと株価の変動の関連性が調査可能になったことで、これまでになかった視点で株式市場の変動を予測し、個人投資家の投資成績の向上につながるような新たな情報チャネル提供に向けた取り組みを始めています。IBMは、先進の分析手法に加え、データウェアハウスやストレージ、さらにはシステム、ソフトウェアを含めた統合ソリューションをご用意。最新技術をベースにこれまでの実績と経験を活かした「ビッグデータ・プラットフォーム」で、経営に直結するITを実現します。

おかげさまで、日本IBM創立75周年。

地球を、より賢く、よりスマートに。

詳しくは で検索してください。

